

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (九州)		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・前年の年度末と比較しても、販売量は確実に増えている。また、来客数も多く、売上は大幅に向上している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・閑散期が終わり、気温が上がることで、ツーリング目的の客が増えた。また、春休みに入って若者客も多い。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・春先になり、気候が良くなった分、客の出足があり、春夏物の衣料品が売れている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・季節にも関係するが、前半より後半にかけての方が来客数が増えてきた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・12月と比べると良くはないが、1～2月が非常に寒く、商店街への来客数が非常に少なかった。3月中旬は暖かくなり、来客数が増加している。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・過ごしやすい季節になり、商店街の人通りも徐々に増え、来客数も少しずつ増えている。景気が回復している実感はないが、売上は前年と比較すると少し増えている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・月初は天候不順、マラソン大会交通規制や営業時間短縮などで来店客が減少したが、後半は気温の上昇、学校制服の繁忙期に入り、新規来店が増加したほか、大河ドラマ効果や、クルーズ船での国内外の観光客の来店が増加した。また、友の会春コース満会、クレジット催事、大型物産催事開催で店内がにぎわった。また、し好性の高い海外ブランド、貴金属、画廊は依然として好調であり、家庭での生活を充実する意欲と、慎重な購買姿勢が続いている。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・売上は周辺施設を含め前年を上回っており、3か月前に比べ良くなっている。客単価は上昇したが、購買客数、来店客数は低下した。売上は総じて良いが、店舗によって格差はみられ、前年に比べ多くの退職者が出た店舗もある。
		コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・気候の変化のせいもあるが、暖かくなるにつれて客単価よりも客数に伸びがある。弁当の数が少しずつではあるが出ている。レジ周り品の購入が増えた。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・冬が長かったため、冬物より春物を探す客が多い。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	来客数の動き	・前年と比較すると、来店客数が僅かながら増加している。それに伴い購入単価も若干増加しているため、横ばいというより若干良い傾向にある。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・飲食、サービス業種は堅調に伸長し、売上を拡大している。販売よりも携帯電話の通信サービス、文化教育、食事等の需要が多い傾向が続いている。衣料業界は苦戦が続いているが、3月に入り徐々に回復し、必要に迫られ実需期に購入する傾向が出ている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	来客数の動き	・気候が暖かくなり桜の花も咲いたことで、観光客数や来店客数が増加し、売上が伸びた。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・暖かくなり、雨も少ないので、海外からの旅行者がかなり増えている。特に中国、香港、フィリピンからの旅行者の増加から売上が上がっている。
		高級レストラン（支配人）	単価の動き	・比較的高額なワインの販売量が多い。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年度より売上が良い。ただ、予約のない客が多く来店しており、計画性がない点は今後の不安要素である。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・暖かくなり、旅行の需要が高まった。
		都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・前年よりも売上が良い状態で推移している。
		都市型ホテル（副支配人）	競争相手の様子	・ホテルだけでなく市全体で外国人旅行者が非常に増えており、各施設は業績が上がっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は学校や企業等の行事が多く、天候に恵まれ街は活気にあふれていた。国内外観光客も確実に増加し、タクシーの売上も堅調であった。
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・受注が落ちることはなかったが、激増はない。年度末の駆け込みも例年どおりである。	

	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信サービスの販売件数が微増している。新サービスへの反応も良い。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・転居の時期で客数が増え、客単価も若干上がっている。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・入院中の患者の退院に伴うサービス増により、売上が増加するとともに、4月からの医療及び介護報酬改定の影響がプラスとなり、一定の利益確保が見込めるようになった。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・国内外からの来訪者が微増傾向にある。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・消費税の引上げの動きが少しずつ出ており、来客数も微増している。
	住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・3月に入り、来客数が増加した。卒業入学時期で新生活のために、不動産、建築住宅の来客数が3倍になった。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・店舗改装のための店仕舞セールで、売価を大幅に値下げをしたが、客が来ても購買に至らず、単価が下がっても買わないという状況であり、景気は非常に厳しい。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・市場では様々な催しがあり、卒業、入学、就職等の影響で多額の出費が必要となり家計は大変苦しくなっている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・寒暖の差が激しく春物商材の動きが鈍い。そのため、消費者の買い控えの影響で悪循環になっている。
	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・前年末からの全国的な厳しい寒さにより野菜の高騰が続いたが、3月上旬から寒さが和らぎ、野菜の相場が落ち着いている。高値でも購入していた客はいなくなり、逆に単価も上がらず価格的には売りやすいが、月間売上としてはそこまで変わらない。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	販売量の動き	・今年の売上は前年比1割以上落ちている。今年は本当にしげが多く、魚が少ないにもかかわらず、アマダイ等特定の魚を除けばほとんど魚価が上がっていない。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・春物の動きが鈍く、客単価も下がっている。競合店の改装等で客数も微減状況である。
	百貨店（営業担当）	それ以外	・国内の政治情勢や米国、中国、北朝鮮等の地政学的問題もあり、株が乱高下している。これに対する先行き不透明感に客は不安を感じている。特に百貨店の主力である婦人関連は極めて厳しい状況であり、衣服、洋品雑貨、化粧品のみ好調である。消費の2極化が更に進んでいる状況である。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・入館客数は特に前年と変わっていないが、販売量が入館客数の前年比より悪い状態である。
	百貨店（営業統括）	来客数の動き	・3月は天候と件も良く好要素が強かったが、季節商材が来店動機につながらず、購買意欲は横ばいである。
	百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・入学・卒業や転出入など新生活需要の高まりを受け、購買は増加している。この半年、需要のある大型商戦はその盛り上がりより直近化する傾向にあり、商戦のない端境期に近隣足元客の購買をどれだけ促進できるかが課題である。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・生鮮食料品の動きは良くなってきたが、それ以外の食料品関係に値上げがあったため、動きが悪い。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・必要なもの以外、購買につながっていない。セールでの動きが顕著である。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・今月に入っても売上は厳しい状況が続いている。特に来客数が前年を維持できない店舗が多く、売上の確保が厳しい。生鮮部門において、鮮魚の売上が非常に厳しい状況が続いている。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・広告立ち上げ日や催し開催日等は売上や来客数で前年比超えとなるものの、その前後ではいずれも前年比減となる。結果として1か月を過ぎれば来客数の前年対比減少の影響の方が大きく、なかなか前年を超えることが難しい状況が続いている。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・販売量を何とか維持しているが、客数減、購入点数増という構図は変わらない。野菜の価格が安定してきている。

スーパー（統括者）	来客数の動き	・野菜価格の値上がりも元に戻りつつあり、生鮮価格高騰による売上増加の継続は期待できない。しかしながら、春の行楽時期に向けて気温が上がり、総菜等の消費増加が期待できる状況である。賃上げと天候に支えられ、売上増加も期待できる。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・今月も相変わらず客は少ないが、少ないなかでも目的買いの客はいる。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・冬がとて寒かったので、3月に入って暖かくなり、客に反応が出てきた。ファッション業界では売上が天候、気候に左右されてしまうが、3月は天候も良くなり客の春物の購買意欲を動かしている。数字としてはまずまず良い。
家電量販店（総務担当）	お客様の様子	・通常、春需要の最盛期になるが、例年より盛り上がりが少ない。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・新生活の引っ越し時期になり、都市部での宣伝活動は順調だが、店舗での販売は来客数が少なく、売行きは良くない。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格はやや下げの傾向である。当地では2月中旬～3月初旬にかけ、催しが開催された。天候に恵まれ、前年を上回る人出でにぎわった。県外からの観光客も多数訪れたが、燃料油の販売量は前年並みである。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	来客数の動き	・改装等で未稼働区画は多数あるが、外国人観光客を含めた来場者数は安定している。
都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・客との会話では、良いもの、楽しいものに出費したいという話が多い。
タクシー運転手	お客様の様子	・このところ夜のタクシー利用が増えているが、昼が減ってきている。
タクシー運転手	お客様の様子	・年度末でかなりの人の移動があり、状況的には良かった。
ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・中小企業では人手不足に困っている。外国人を採用するにも壁が高く、新規卒業者の応募も少ないなかで模索している。
競輪場（職員）	競争相手の様子	・他の団体において売上高に顕著な変化がない。
設計事務所（所長）	単価の動き	・大企業は春闘で賃金が上がっているが、地方の中小・零細企業には恩恵がない。
設計事務所（代表）	お客様の様子	・客の動向がそれほど変わらない。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・不動産業のマンション、戸建ての販売はなかった。年度末ということで駆け込み需要の営業をかけたが、来場者や購入者の動員ができず、販売量が伸びていない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・季節柄来客増加を見込んでいたが、集客力の高い郊外大型店の催し等の影響から、逆に来客数が前年を下回っている。
一般小売店[精肉]（店員）	来客数の動き	・総売上は変わっていないが、来店客数が落ちている。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・熊本地震の需要も含めて、前年より買換えの需要や新規の購入数が減っている。少し落ち着いたので買物は控えたい、という客が増えてきた。
スーパー（店長）	販売量の動き	・来店客数が前年比91.8%で推移しており、買上点数は同91.8%、1品単価は同98.4%となっている。地域の液状化現象により、来店客数が1割ほど減少している。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・月の売上の状況としては、前半は雨が非常に多く、客の来店が少なかったため、前年を大きく下回る状況が続いた。後半は晴天が戻り、前半よりは良くなったが、それを取り返すまでには至らなかった。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・桜の開花が早まり、週末は花見中心に客の遠出が多くなった。郊外では客数増、市街地では客数減と大きく客足に差が出ている。例年の客単価の増加はみられず、購入も必要数で抑えている傾向がある。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・寒さもあり客の出足が鈍かった。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・最近、当商店街及び近隣商店街において、同業者が2店舗閉店した。衣料品を扱っているが、現在、商店街は駅前との競合に負け、衣料品は厳しい状況にある。

	家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・3月に入り、大物、小物を問わず動きが悪く、客数も減っている。シングル需要期により、単価は全体的に下落傾向である。
	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・車検、点検のサービス在庫数が減少している。新車と中古車の販売が会社の収益の源泉ではあるが、サービス売上の減少が徐々に良くない状況になっており、大きな痛手である。
	ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・医薬品等、全体的に利益率の高い商品の売上が伸び悩んでいる。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・3月は送別会による団体客を見込んでいたが、思ったよりも予約がなく、今月は良くなかった。
	観光ホテル（総務）	販売量の動き	・前年に比べ、熊本地震による復興需要の力強さが薄れている。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4月以降の予約の出足が鈍い。海外パッケージツアー、団体の予約が前年比100%を切っている。国内では京阪神向けの好調が持続しているが、関東の大型レジャー施設の出足は今一つで、記念行事に期待している。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・3か月前は12月後半であり、正月前ということもあり、1年の中では、今月は12月と同様に状況は良い。
	美容室（店長）	来客数の動き	・卒園・卒業等で、先生方の着付けが例年より多かったが、他のパーマ、カットの客が少なかった。
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・3～4月は転勤の時期で、生徒の動きがある。
	設計事務所（所長）	来客数の動き	・特に変わらない。
	x 家電量販店（店員）	販売量の動き	・この3月は学生や単身の家電需要が増えるはずだが、今年は異常に少ない状況である。
企業 動向 関連 (九州)	輸送業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・健康食品会社における中国向けの受注が好調である。特に日本製の栄養補助食品は納品価格も上昇しており、好調である。
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年3月は決算期でもあり、計画以上の売上を上げていたが、今年も順調に伸びている。今年は冬が寒く、特に1～2月の売上は良くなかった。その反動のせいか、桜の開花宣言も早く、スーパーマーケット向けの商品が順調に伸びている。異動時期でもあり、歓送迎会のための居酒屋からの注文量が多くなった。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・決算時期に入り、各ユーザーは在庫調整、生産調整しながら動いているが、それが終わり、新年度に入れば状況は上向きになる。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量はここ3か月順調に推移している。ただ、受注金額の上昇については大変厳しい状況にある。中国企業の価格に対抗しなければならないなかで、国内では賃金の上昇や就業時間の上限規制等の問題がある。
	電気機械器具製造業（取締役）	受注価格や販売価格の動き	・取引先から2年後までの受注見通しが出ている。
	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・全体的に見て客先の生産量が増加している。ただし、リサイクルの価格面だけをみると、米国の関税による影響等で落ち込みがみられる。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・今月は気候が1～2月より良くなり、売上が改善している。客の動きも良くなっている。
	農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・食品の販売市況が落ちついている。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節商材が端境期であるが、比較的順調な受注で推移している。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・大口取引が発生した結果、受注額が伸びたが、その大口取引を差し引けば、前年の受注件数と1件当たりの受注額はほぼ同じ結果である。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上、受注共に前年と変わらない。産地全体としては、受注面で苦労しているところも多々見受けられる。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・3か月前と比べても受注量に変化がない。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度末ということもあり、今月は荷動きが活発になっている。前年同時期と比較しても例年並みの荷動きである。時期的な傾向であるため、景気が良いとはいえない。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・仕事の量は増えているものの、それをさばく人件費の高騰、人手不足及び運送会社の相次ぐ値上げが響き、利益増までは結び付かない。

	金融業（従業員）	取引先の様子	・マンション販売にやや陰りが出ているほか、自動車販売も高水準ながらほぼ横ばいで推移している。一方、百貨店やスーパーマーケットの売上は高額商品や化粧品を中心に増加傾向にある。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・需資に変化はない。
	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業を始め、様々な業種で一定の受注を維持しているが、需要の増加には至っていない。
	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・前年同時期に比べ受注量が減っている。
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・新規の得意先を開拓しようと積極的に取り組んでいる。まだその途中で成果は見えないが、何らかの動きは月末から来月初旬に判明する。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・中国・韓国からの客が増えている。高級酒が売れているが、一般的には低価格酒の方が売れている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先との意見交換では、業務状況に大きな変化があると答える客はほとんどいない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・3月前半は厳しかったが、後半は好天が続き暖かくなり、桜の開花が早くなったことで、人出が多くにぎやかな月になった。客との会議では、タクシーの売上が3月後半にかなり好転しており、飲食店やホテルでも良くなっている。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・3月期決算企業の着地見込みは、情報聴取したところ増収増益の企業が多い。しかし、飲食業の客は苦戦しているところもある。2020年東京オリンピックに向けて、監視カメラの新設、増設、更新需要が高い。
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・今年の初旬は産地からの出荷量が低迷し、価格が高騰した。出荷量が伸びてきたが、春休みに入り給食が止まったことにより、価格が下落している。生産者は多くの量を出荷できないため、経営は厳しくなる。
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が減っている。大きな規模の取引先によっては、中小企業への対応が良くない。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・年明けから受注状況が芳しくなく、売上に響いている。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事が少なくなり、待機する技術者も多くなった。民間工事でも地方では多く期待できないが、何でも受注できるよう営業をしていく。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・スポーツやキャンプ等の催しが年末から2月にかなり多く開催されたが、3月はその反動で落ち込みがある。これから先は、そういう催しがなく、厳しくなる。
	x	競争相手の様子	・市町村が発注する福祉やまちづくり関係の調査や計画策定を支援するコンサルタント業務は、予算が前年度と比較して少なくなっていることから、コンサルタントへの発注量が少なくなっている。そのため、入札があっても予算の4割近い金額で入札に応じるところが出ている。段々景気が悪くなっている。
雇用 関連 (九州)	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者が動き始め、派遣の求人数・求職者数共に大きく伸びている。求人も来期に向けて増員している企業が多くなっている。
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・通常の欠員補充に加えて、新年度に向けての各社増員の動き等も多く見られる。登録者の動きも活発であり、景気は良い傾向がうかがえる。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人誌や新聞等の求人数が落ち着いている。企業の直接雇用の求人も、以前は応募がほとんどないという声が多かったが、今は若干応募があるという状況に変わっている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新年度に向けて人材の依頼が多くなっているが、前年度と比較して余り変化がない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・この3か月は気候が安定せず寒い日が続いた。人々の消費行動も鈍い。また求人の動向をみると、働き方改革もあり、企業側も採用や雇用に戸惑いを見せており、悪い状況ではないが良い材料もない。
	職業安定所（所長）	求職者数の動き	・求人、求職の動きに大きな変化がない。

	職業安定所（職員）	採用者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉分野と派遣・請負業を含むサービス業について、ここ数年、ほとんどの月で前年同月を上回る求人数が提出されている。医療福祉の主たる職種である介護職は、採用数も多いが、その後の離職も多いため、求人は出たままという状態である。派遣・請負については、求職者に不人気な販売職等の職種が多く、応募者が少ない状態が続いている。 ・事業所では、景気について前年とほぼ変わらない。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・求人数の増加がみられ、有効求人倍率も高い水準で推移している。
	職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年卒業者の採用において、企業の採用意欲は高く、内定者獲得への動きが早期化、活発化している。そのようななか、数社ではあるが2018年卒業者の採用を続けていっている企業も見受けられる。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・3月は求人が増える時期であるが、生命保険会社のビジネスプロセスアウトソーシングセンター等の特定業種での需要はあるものの、目立った求人の増加はない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人情報誌制作会社（編集者） ・求人情報誌制作会社（編集者）
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人情報誌制作会社（編集者） ・求人情報誌制作会社（編集者）
	x	-	-